

令和5年度生徒指導サポート実践校「特別活動の取組事例」

学校名	広島県立大竹高等学校	校長	應本 哲夫	生徒指導主事	木村 公一
取組事例名	『高校野球全校応援』				

1 取組の設定

取組を実施する意図及びねらい	取組を通して育てたい児童生徒像
野球応援を通じて、大竹高校の生徒としての一体感、所属感、母校愛を育む。また開幕試合という独特な緊張感を感じながら、公共の場でマナー良く取り組みを行う。	人間関係形成の育成のため、学校の代表として、試合に臨む野球部生徒に対して応援を通じて、同学年・他学年との絆を深めることにより自己肯定感や自己存在感を高める。



2 展開

取組の具体的内容	取組の創意工夫
【試合前日まで】 ①応援練習（野球部・吹奏楽部・生徒会） コールの仕方・曲合わせ 【試合当日】 ①体育館に集合して、全体で応援練習・校歌練習 ・観戦マナーについて説明 ②試合開始前のエール交換 ・対戦相手校に対する敬意 ③試合 ・応援団長の指示の下、観戦マナー良く、応援活動を実施  ④試合終了後のエール交換 ・対戦相手校に対する敬意 ⑤会場の清掃活動	生徒にめあてをもたせるために 事前指導として、学校という集団が、校外で全校としての活動を通じて、協力することや公共の場でのマナーについて、経験をさせることで集団の一員という自覚を気付かせる。 生徒の意欲を高めるために 応援をリードする野球部・生徒会・吹奏楽部が頑張る姿を見せたり、まとまって声援を送ったり、全員で校歌を斉唱し、全員で拍手をするなど互いに認め合う機会を設ける。 生徒の頑張りを認め、価値付けるために 応援する側、応援された側でそれぞれ感謝し合う機会を設ける。この活動を通じて普段とは異なる一面を見たところで、指導者がそれに気づき、頑張りを認める言葉をかける。



3 成果と課題

成果として、学校外にて全校生徒・教職員が集合して、野球の応援を通じて仲間との絆や自己存在感、学校に対する母校愛を育むことが出来た。天候不良の状態、待機時間も長かったが、生徒にとって思い出深い、満足度の高い行事となった。課題として、全校応援の呼びかけを全校集会の一度だけでなく、普段のHR等の時間も利用し、また応援練習の時間を確保すればよかった。全校での応援の意義を担任から時間をかけて行えば、参加する生徒の関心・意欲を高めることができた。